

平成 17 年度当初予算 施策別概要

551 高速交通網の整備

55101 高速交通ネットワークの形成（地域振興部）

55102 高規格道路ネットワークの形成（県土整備部）

（主担当部局：地域振興部）

< 施策の目的 >

（対象）県民が

（意図）空港、新幹線、高速道路など様々な高速交通ネットワークを利用して、全国、県内と活発な交流・連携ができるようになっている。

< 施策の数値目標 >

目 標 項 目		H 1 5 年度	H 1 6 年度	H 1 7 年度	H 1 8 年度
高速交通機関アクセス 30 分程度の市町村割合（％）	目標値	76.8	77	80	80
	実績（見込み）値	77	77		

県内の各市町村役場から最寄りのインターチェンジ等高速交通機関へ 30 分程度で到達できる市町村の割合。高速交通体系の利用可能性を示します。

< 平成 17 年度に残っている課題 >

中部国際空港への海上アクセスについては、観光振興、集客交流、まちづくり等にとっても重要なポテンシャルを持つことから、安定した需要の確保が必要です。

県南部地域においては、北、中勢地域と結ぶ幹線道路は 42 号しかなく、東南海・南海地震で大きな被害が想定されるほか、大雨などによりたびたび通行止めとなるため、日常生活においても支障をきたしている状況にあり、緊急時に対応できる道路整備が求められています。

第二名神高速道路については、数年後に亀山東 JCT～大津 JCT の開通が予定されているため、第二名神高速道路四日市～亀山間の早期整備が望まれます。

リニア中央新幹線については、実用化のための基本的な技術は着実に進捗しているものの、信頼性・長期耐久性や建設コストの低減が課題となっています。

< 平成 17 年度の施策の取組方向 >

中部国際空港、海上アクセスは、その機能を十分に発揮することが可能となるよう、開港後の利用促進に向けた取り組みを推進します。

県南部地域のリダンダンシー機能の確保のため、「命の道」としての近畿自動車道紀勢線（平成 17 年度完成予定の大宮大台～勢和多気間、新直轄区間の尾鷲北～紀伊長島間）及び熊野尾鷲道路の整備促進に重点的に取り組みます。

第二名神高速道路の整備が遅れると県内の経済活動等への影響が心配されるため、第二名神高速道路（四日市～亀山間）の早期事業着手に向け、各民間推進団体とも協力しながら一層の事業促進をはかります。

リニア中央新幹線については、引き続き関係都府県と連携して、早期実現に向けて国等に強く働きかけていくとともに、建設機運の醸成に向けて、広報、啓発活動に努めます。

< 主な事業 >

(重) 直轄道路事業負担金 (高速道路網の整備)

【基本事業名：55102 高規格道路ネットワークの形成】

当初予算額： 2,123,333千円 3,135,999千円

事業概要：国が行う道路事業に対して負担金を支出することにより、県内の道路ネットワークの形成を促進し、県民生活の利便性、安全性の向上をはかります。

公共事業 (高速交通網の整備) 【基本事業名：55102 高規格道路ネットワークの形成】

当初予算額： 3,850,000千円 3,710,000千円

事業概要：高規格幹線道路の整備と連携した広域的な道路ネットワークの形成を進めます。

(重) 高速道路関連施設整備対策事業費

【基本事業名：55102 高規格道路ネットワークの形成】

当初予算額： 100,000千円 80,000千円

事業概要：高速道路整備に関連する河川、砂防工事等を供用にあわせて整備します。

リニア中央エクスプレス関係費 【基本事業名：55101 高速交通ネットワークの形成】

当初予算額： 2,805千円 2,299千円

事業概要：東京 大阪間を1時間で結び、新たな交流・連携を促進するものであり、沿線府県と連携し活動を行うとともに、親子試乗会、講演会等のPR活動を実施します。